

プログラム名	課題名	評価作業部会名(案)
<b>若手研究者の自立的な研究環境整備促進</b>		
中間評価	産学融合トップランナー発掘・養成システム	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	次代を担う若手大学人育成イニシアティブ	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	新領域創成をめざす若手研究者育成特任制度	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	先端学際プロジェクトによる若手人材の育成	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	先端領域若手研究者グローバル人材育成	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	卓越した若手研究者の自立促進プログラム	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	地方総合大学における若手人材育成戦略	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	挑戦的若手研究者の自立支援人事制度改革	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	ファイバーナノテク国際若手研究者育成拠点	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	北大基礎融合科学領域リーダー育成システム	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
中間評価	早稲田高等研究所テニユア・トラックプログラム	若手研究者の自立的な研究環境整備促進評価作業部会
<b>女性研究者支援モデル育成</b>		
事後評価	輝け、女性研究者！活かす・育てる・支えるプラン in 北大	女性研究者支援モデル育成評価作業部会
事後評価	研究者養成のための男女平等プラン	女性研究者支援モデル育成評価作業部会
事後評価	生涯にわたる女性研究者共助システムの構築	女性研究者支援モデル育成評価作業部会
事後評価	女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築	女性研究者支援モデル育成評価作業部会
事後評価	女性研究者の包括的支援「京都大学モデル」	女性研究者支援モデル育成評価作業部会
事後評価	女性研究者マルチキャリアパス支援モデル	女性研究者支援モデル育成評価作業部会
事後評価	地域連携によるキャリアパス環境整備	女性研究者支援モデル育成評価作業部会
事後評価	保育とワークシェアによる女性医学研究者支援	女性研究者支援モデル育成評価作業部会
事後評価	社の都女性科学者ハードリング支援事業	女性研究者支援モデル育成評価作業部会
事後評価	理系女性のエンパワーメントプログラム	女性研究者支援モデル育成評価作業部会
<b>地域再生人材創出拠点の形成</b>		
中間評価	石川伝統工芸イノベーション養成ユニット	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	宇宙映像利用による科学文化形成ユニット	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	海洋サイバネティクスと長崎県の水産再生	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	環境管理修復・地域資源活用人材養成ユニット	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	元気なら組み込みシステム技術者の養成	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	徳島県南のLED関連技術者養成拠点の形成	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	ながのブランド郷土食	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	21世紀型ものづくり人材若手マイスター育成	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	「能登里山マイスター」養成プログラム	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	ホールマネジメントエンジニア育成ユニット	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
中間評価	みなまた環境マイスター養成プログラム	地域再生人材創出拠点形成評価作業部会
<b>戦略的研究拠点育成</b>		
事後評価	先端科学と健康医療の融合研究拠点の形成（早稲田大学）	戦略的研究拠点育成評価作業部会
事後評価	デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構（慶應義塾大学）	戦略的研究拠点育成評価作業部会
事後評価	ユーザーを基盤とした技術・感性融合機構（九州大学）	戦略的研究拠点育成評価作業部会
<b>アジア科学技術協力の戦略的推進（地域共通課題解決型国際共同研究）</b>		
事後評価	アジア言語の壁の克服に向けた音声翻訳共通研究基盤の構築	国際共同研究推進評価作業部会
事後評価	アジアにおけるレプトスピラ感染症対策ネットワーク構築のための初動研究	国際共同研究推進評価作業部会
事後評価	アジア防災科学技術情報基盤の形成	国際共同研究推進評価作業部会
事後評価	環境にやさしい水質浄化技術の研究開発	国際共同研究推進評価作業部会
事後評価	地震防災に関するネットワーク型共同研究	国際共同研究推進評価作業部会
事後評価	真菌症原因菌の疫学的研究と真菌症対策拠点形成	国際共同研究推進評価作業部会
事後評価	東南アジア物産産業界バイオ研究拠点の形成	国際共同研究推進評価作業部会
事後評価	バイオウェイストのリファイナリー型資源化	国際共同研究推進評価作業部会
事後評価	東シナ海有害赤潮の日中韓国際連携研究	国際共同研究推進評価作業部会
事後評価	ユビキタス情報社会を支える通信基盤技術	国際共同研究推進評価作業部会
<b>新興分野人材養成</b>		
事後評価	遺伝カウンセリングコース	ライフ系人材養成評価作業部会
事後評価	医療工学技術者創成のための再教育システム	ライフ系人材養成評価作業部会
事後評価	医療政策人材養成	ライフ系人材養成評価作業部会
事後評価	医療ナノテクノロジー人材養成ユニット	ライフ系人材養成評価作業部会
事後評価	化学・生物総合管理の再教育講座	情報・社会基盤系人材養成評価作業部会
事後評価	環境リスク管理のための人材養成	情報・社会基盤系人材養成評価作業部会
事後評価	組み込みソフトウェア技術者の人材養成	情報・社会基盤系人材養成評価作業部会
事後評価	クリニカル・ゲノム・インフォマティクス	ライフ系人材養成評価作業部会
事後評価	高度リスクマネジメント技術者育成ユニット	情報・社会基盤系人材養成評価作業部会
事後評価	コンテンツ創造科学産学連携教育プログラム	情報・社会基盤系人材養成評価作業部会
事後評価	産学融合先端ソフトウェア技術者養成拠点の形成	情報・社会基盤系人材養成評価作業部会
事後評価	動物実験医学の研究支援者育成システム	ライフ系人材養成評価作業部会
事後評価	ナノ高度学際教育研究訓練プログラム	情報・社会基盤系人材養成評価作業部会
事後評価	ナノテクノロジー要素技術養成プログラム	情報・社会基盤系人材養成評価作業部会
事後評価	農学生命情報科学の大学院教育研究ユニット	ライフ系人材養成評価作業部会
事後評価	メディア情報処理専修コース	情報・社会基盤系人材養成評価作業部会
事後評価	ライフサイエンス分野知財評価員養成制度	ライフ系人材養成評価作業部会
<b>重要課題解決型研究等の推進</b>		
事後評価	組込みシステム向け情報セキュリティ技術	情報通信研究評価作業部会
事後評価	高セキュリティ機能を実現する次世代OS環境の開発	情報通信研究評価作業部会
事後評価	新映像技術ダイフイントゥザムービーの研究	情報通信研究評価作業部会
事後評価	新興・再興感染症制圧のための共同戦略	感染症研究評価作業部会
事後評価	生物化学テロにおける効果的な除染法の開発	国際テロ犯罪研究評価作業部会
事後評価	分散共有型研究データ利用基盤の整備	情報通信研究評価作業部会
<b>科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進</b>		
事後評価	1遺伝子可視化法による遺伝子ベクター創製	ナノバイオテクノロジー研究評価作業部会
事後評価	環境と作業構造のユニバーサルデザイン	次世代ロボット研究評価作業部会
事後評価	施設内外の人の計測と環境情報構造化の研究	次世代ロボット研究評価作業部会
事後評価	生体内分子を可視化するナノセンサ分子開発	ナノバイオテクノロジー研究評価作業部会
事後評価	精密構造識別型の電気・光応答バイオセンサ	ナノバイオテクノロジー研究評価作業部会
事後評価	地域完結型地熱システム構築と運営	バイオマス利活用研究評価作業部会
事後評価	電子タグを利用した測位と安全・安心確保	ユビキタスネットワーク研究評価作業部会
事後評価	BSL-4施設を必要とする新興感染症対策	感染症研究評価作業部会

評価項目(案)

－ 若手研究者の自立的な研究環境整備促進(中間評価) －

評価項目		評価の視点	
総合評価	A. 所期の計画以上の取組みが行われている		
	B. 所期の計画と同等の取組みが行われている		
	C. 所期の計画以下の取組みであるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組みもみられる		
	D. 総じて所期の計画以下の取組みである		
I. 進捗状況 (目標達成度)	a. 所期の計画以上に進捗している b. 所期の計画通りに進捗している c. 所期の計画よりやや遅れている d. 所期の計画より大幅に遅れている	(目標に対する進捗状況)	<input type="checkbox"/> 当初の計画に沿って順調に進捗しているか
		(社会情勢の変化への対応(外部要因))	<input type="checkbox"/> 当初の計画時から社会情勢に変化があった場合に、適切に対応しているか
		(検証による軌道修正(内部要因))	<input type="checkbox"/> 実施過程で計画に対する進捗状況の検証を適切に行い、必要に応じて軌道修正を行っているか
II. 国際公募・選考・業績評価	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	(育成目標)	<input type="checkbox"/> 世界的研究拠点を形成するために、どのような分野で、どのような人材をどのように育成するのが明確になっているか
		(国際公募・選考)	<input type="checkbox"/> 策定した国際公募・選考(審査)基準は、多様かつ優れた人材を採用するために適切な内容になっているか
			<input type="checkbox"/> 実際の若手研究者の採用は、上記の国際公募・選考(審査)基準および選考プロセスに基づき、適正であったか
		(業績評価)	<input type="checkbox"/> 策定した採用後の若手研究者の業績評価基準は、適切な内容になっているか。また、業績評価に当たっては、適正な審査員による客観的・透明な評価プロセスとなっているか
			<input type="checkbox"/> 実際の若手研究者の業績評価は、上記の業績評価基準に基づき、適正であったか。また、適切な育成目標の設定、若手研究者へのフィードバックを行うなど、人材養成プログラムの主旨に沿って実施しているか
		(創意・工夫・独自性)	<input type="checkbox"/> 上記の項目について、機関独自の創意・工夫がみられるか

Ⅲ. 人材養成システム改革 (上記Ⅱ以外の制度設計に基づく実施内容・実績)	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	(人事制度・組織改革)	<input type="radio"/> 人事制度の改革や、必要となる研究組織の改革を積極的に行うことなど、導入するテニユア・トラック制の制度設計が十分に行われているか
		(独立性)	<input type="radio"/> 若手研究者の独立性が確保されているか。(若手研究者が自立して研究するための研究資金、研究スペース、人的支援(ex. 研究補助者、技術補助者、事務補助者)等の十分な提供が行われているか。)
		(人材輩出)	<input type="radio"/> 優れた研究者による活力ある研究環境の形成を指向するものであるか。(実施期間終了後に世界第一線級の研究者が輩出できる見込みはあるか。)
		(テニユア審査)	<input type="radio"/> テニユア審査基準の形成に取り組んでいるか。また、若手研究者へテニユア審査に向けての目標を示しているか。(テニユア中間評価を実施する場合も、テニユア審査に準ずる。)
			<input type="radio"/> 厳格に評価した上で、任期終了後に若手研究者をテニユア・ポストへ着任させるといったキャリアパスが用意されているか
		(流動性)	<input type="radio"/> 安定的な職位について後も、人材の流動性を活性化するための仕組み(再任可能な任期制、再審制など)になっているか
		(組織)	<input type="radio"/> 研究部門のみでなく、管理部門、研究支援部門等が機関・組織全体として機能する体制となっているか
			<input type="radio"/> 上記の項目について、機関独自の創意・工夫がみられるか
Ⅳ. 人材養成システム改革(上記Ⅱ以外の制度設計に対するマネジメント)	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	(改革の構想・PDCAサイクル)	<input type="radio"/> 目指すシステム改革の構想が明確であるか。また、実施過程で計画に対する評価を適切に行い、具体的に必要対策を講じるなど、構築している人材養成システム改革に対してPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルが機能しているか
			<input type="radio"/> 単なる研究者の雇用策、研究費の支援になっていないか。組織内に画一的に研究費を配分していないか
		(波及効果)	<input type="radio"/> 提案された人材養成システム改革が他の研究機関におけるシステム改革のモデルとなるような先導的なものであり、波及効果が期待できるか
			<input type="radio"/> システム改革のモデルとしての情報発信は適切に行われているか
		(総括責任者)	<input type="radio"/> 総括責任者は、人材養成システム改革構想実現のために必要な権限と責任を有し、リーダーシップを十分に発揮しているか
		(資金計画)	<input type="radio"/> 人材養成システム改革構想を実現する上で適切な資金計画(振興調整費による取組だけでなく自主的な取組も含む。)となっているか
			<input type="radio"/> 人材養成システム改革構想全体の中で科学技術振興調整費が有効に活用されているか
			<input type="radio"/> 上記の項目について、機関独自の創意・工夫がみられるか
Ⅴ. 今後の進め方	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	(目標達成の可能性)	<input type="radio"/> 計画期間において、確実な目標達成が見込まれるか
		(計画遂行の妥当性)	<input type="radio"/> 目標達成に向けた方策は適切で、当初の計画を上回る又は計画どおりに達成が見込まれる取組となっているか

VI. 実施期間終了後の継続性 a. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保が期待できる c. 継続性・発展性の確保がやや期待できない d. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	(方針)	<input type="radio"/> 実施期間終了後、構築したシステムを自立的に維持、運営、発展させるための方策が明確に示されており、継続性が担保できているか
	(資金計画)	<input type="radio"/> 資金計画は実施期間終了後の継続性も見据えたものとなっているか
	(体制・コミットメント)	<input type="radio"/> 実施期間終了後についても取組の継続性を確保し得る体制となっているか。特に、機関の長のコミットメントがあるか

評価項目(案)

－ 地域再生人材創出拠点の形成 (中間評価) －

評価項目		評価の視点	
総合評価	A. 所期の計画以上の取組みが行われている B. 所期の計画と同等の取組みが行われている C. 所期の計画以下の取組みであるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組みもみられる D. 総じて所期の計画以下の取組みである		
I. 進捗状況	a. 所期の計画以上に進捗している b. 所期の計画通りに進捗している c. 所期の計画よりやや遅れている d. 所期の計画より大幅に遅れている	<input type="checkbox"/> 所期の計画に沿って拠点形成は順調に進捗しているか <input type="checkbox"/> 所期の養成人数目標を達成しているか <input type="checkbox"/> 客観的な情勢の変化等(社会ニーズの変化等)があった場合には、所期の計画の適切な見直し等、柔軟に対処できているか	
II. 拠点形成手法の妥当性	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	(地域ニーズの反映) <input type="checkbox"/> 地域ニーズを反映した人材養成内容、人材活用施策等となっているか <input type="checkbox"/> 継続的な地域ニーズの調査を行い、その結果を適宜拠点運営に反映する仕組みとなっているか (人材養成の手段・方法) <input type="checkbox"/> 養成すべき人材像に対して、被養成者が習得すべき知識・スキル内容及びその到達レベルは明確に定められているか、また、それらは適切なものとなっているか <input type="checkbox"/> 被養成者の募集・選考方法は適切か <input type="checkbox"/> 被養成者が習得すべき知識・スキル及びその到達レベルに対応して、カリキュラムは体系的に整備されているか <input type="checkbox"/> カリキュラムは科学技術を活用して大学等の個性・特色を活かしたものになっているか、或いは、将来的に大学等の個性・特色につながり得るものになっているか <input type="checkbox"/> カリキュラム以外の方法(OJT、インターンシップ等)を行っている場合、それらは適切に実施されているか、また、養成人材像及びカリキュラムとの整合性はとれているか <input type="checkbox"/> 人材養成従事者(教員等)の配置状況や設備・備品類の整備状況等は、所期に計画した拠点を運営するために適切なものであるか <input type="checkbox"/> 投下される資金の規模や用途等は、拠点運営の内容とバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 被養成者が習得した知識・スキルに関し、その到達レベルの測定方法は明確に定められているか、また、それらは適切なものとなっているか <input type="checkbox"/> 被養成者が目標とするレベルに到達したかを判定する基準(修了要件)は明確に定められ、それを認定する仕組み(判定委員会等)はあるか、また、それらは適切なものとなっているか	

<p>III. 拠点形成の有効性</p>	<p>a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である</p>	<p>(有用性・波及効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> 養成修了者は、当該地域の再生のために活躍しているか、あるいは活躍が期待できるか</li> <li><input type="radio"/> 被養成者や養成従事者へのアンケート、養成修了者やその出身元機関への追跡調査、外部有識者等による評価等を行い、その結果を当該拠点の運営にフィードバックする仕組みはあるか</li> <li><input type="radio"/> 他者が利用可能な形でテキスト等の作成が行われていたか</li> <li><input type="radio"/> 当該拠点の運営方法は他の地域にとっても有効・有用な方法となり得るものか、また、他の地域への波及効果はどの程度あるか</li> </ul> <p>(情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> 当該地域を中心とした広報は十分であるか</li> <li><input type="radio"/> 有用性・波及効果の高いと想定される拠点運営方法等に関し、他地域に向けた情報提供・情報交換は活発に行われているか</li> </ul>
<p>IV. 実施体制の妥当性</p>	<p>a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である</p>	<p>(実施体制の妥当性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> 当該拠点の運営に対する実施機関の関与(支援・協力)は積極的に行われているか</li> <li><input type="radio"/> 当該地域を中心とする民間企業等の参画による人的・経済的な協力は効果的に行われているか</li> </ul> <p>(自治体との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> 自治体との連携は適切かつ効果的に図られているか</li> <li><input type="radio"/> 地域の自治体のコミットメントは適切に行われているか</li> <li><input type="radio"/> 育成された人材が地元で活躍できるための支援策が検討されているか</li> </ul>
<p>V. 今後の進め方</p>	<p>a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である</p>	<p>(目標達成の可能性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> 計画期間において、確実な目標達成が見込まれるか</li> </ul> <p>(計画遂行の妥当性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた方策は適切で、所期の計画を上回る又は計画どおりに達成が見込まれる取組となっているか</li> </ul>
<p>VI. 継続性・発展性の見通し</p>	<p>a. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保が期待できる c. 継続性・発展性の確保がやや期待できない d. 継続性・発展性の確保が全く期待できない</p>	<p>(継続性・発展性の見通し)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> 実施機関の長による支援が十分行われてきたか、また、実施期間終了後も、それらの支援が継続され、機関本来の事業として実施される見通しはあるか、その計画は実現可能性があるか</li> <li><input type="radio"/> 期間終了後、拠点の運営を継続するために必要な経費・人員を確保する見通しはあるか</li> <li><input type="radio"/> 当該地域での拠点の運営において期間終了後の発展性を期待できるものか</li> </ul>

## 評価項目(案)

### － 女性研究者支援モデル育成 (事後評価) －

評価項目		評価の視点	
総合評価	A. 所期の計画以上の取組みが行われている B. 所期の計画と同等の取組みが行われている C. 所期の計画以下の取組みであるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組みもみられる D. 総じて所期の計画以下の取組みである		
I. 目標達成度	a. 所期の目標を上回っている b. 所期の目標に達している c. 所期の目標をやや下回っている d. 所期の目標を大幅に下回っている		<input type="checkbox"/> ミッションステートメントを含む当初計画は実施されたか
II. 取組の成果	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である		<input type="checkbox"/> 女性研究者が出産・育児等と研究活動を両立し継続できる仕組みが構築できたか <input type="checkbox"/> 柔軟な勤務体制の確立や意識改革等の機関のシステム改革は適切になされたか <input type="checkbox"/> 女性研究者をとりまく環境の改善により女性研究者は増加したか、或いは将来的な増加が期待できるか
III. 取組の妥当性・効率性	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	(妥当性)	<input type="checkbox"/> 実施した支援内容は女性研究者のニーズを踏まえたものであったか <input type="checkbox"/> 支援を実施することにより女性研究者をとりまく環境は改善されたか
		(効率性)	<input type="checkbox"/> 取組結果の評価や評価結果を踏まえた改善は適切に行われたか <input type="checkbox"/> 資金規模と支援の内容のバランスは取れていたか
IV. 波及効果	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である		<input type="checkbox"/> 他の研究機関に波及し得る先導的なモデルとなるものであるか <input type="checkbox"/> 情報発信は適切になされたか
V. 実施体制の妥当性	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である		<input type="checkbox"/> 組織としてのシステム改革を行うにあたり妥当な体制であったか <input type="checkbox"/> 実施にあたっての機関・組織の長のコミットメントは十分であったか
VI. 実施期間終了後における取組の継続性・発展性	a. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保が期待できる c. 継続性・発展性の確保がやや期待できない d. 継続性・発展性の確保が全く期待できない		<input type="checkbox"/> 実施期間終了後に取組の継続性を確保し得る体制・資金計画となっているか <input type="checkbox"/> 継続性確保のための機関・組織の長のコミットメントは十分か

評価項目(案)

－ アジア科学技術協力の戦略的推進 地域共通課題解決型国際共同研究(事後評価) －

	評価項目	評価の視点																		
総合評価	A. 所期の計画以上の取組が行われている B. 所期の計画と同等の取組が行われている C. 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる D. 総じて所期の計画以下の取組である																			
I. 目標達成度	a. 所期の目標を上回っている b. 所期の目標に達している c. 所期の目標をやや下回っている d. 所期の目標を大幅に下回っている	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1151 459 1182 499"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 459 2121 499">研究全体の目標達成度はどの程度か。(当初の計画あるいは採択コメントを反映した計画を基準とする)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 523 1182 563"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 523 2121 563">情勢の変化に対応して目標を適切に見直すことができたか。</td> </tr> </table>	<input type="radio"/>	研究全体の目標達成度はどの程度か。(当初の計画あるいは採択コメントを反映した計画を基準とする)	<input type="radio"/>	情勢の変化に対応して目標を適切に見直すことができたか。														
<input type="radio"/>	研究全体の目標達成度はどの程度か。(当初の計画あるいは採択コメントを反映した計画を基準とする)																			
<input type="radio"/>	情勢の変化に対応して目標を適切に見直すことができたか。																			
II. 研究成果	a. 所期の計画以上の成果が得られている b. 所期の計画と同等の成果が得られている c. 所期の計画以下の成果だが、一部では計画と同等又はそれ以上の成果が得られている d. 所期の成果が得られていない	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="904 584 1144 608">(科学的・技術的価値(地域共通課題の解決))</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 624 1182 647"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 624 2121 647">地域共通課題の解決につながる成果が得られたか。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 663 1182 687"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 663 2121 687">原著論文の発表など、研究成果の量・質はアジア地域の科学技術向上に資するに十分であるか。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="904 711 1144 735">(波及効果(科学技術コミュニティの形成))</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 751 1182 775"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 751 2121 775">アジア地域の科学技術コミュニティの形成に向けてネットワークが形成されたか。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 791 1182 815"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 791 2121 815">研究成果は関連分野への科学的・技術的波及効果が期待できるものか。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 831 1182 855"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 831 2121 855">今後の社会経済の活性化への貢献が期待できるか。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="904 879 1144 903">(情報発信)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 919 1182 943"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 919 2121 943">論文・講演等による関連分野の研究者等への情報発信は十分か。</td> </tr> </table>	(科学的・技術的価値(地域共通課題の解決))		<input type="radio"/>	地域共通課題の解決につながる成果が得られたか。	<input type="radio"/>	原著論文の発表など、研究成果の量・質はアジア地域の科学技術向上に資するに十分であるか。	(波及効果(科学技術コミュニティの形成))		<input type="radio"/>	アジア地域の科学技術コミュニティの形成に向けてネットワークが形成されたか。	<input type="radio"/>	研究成果は関連分野への科学的・技術的波及効果が期待できるものか。	<input type="radio"/>	今後の社会経済の活性化への貢献が期待できるか。	(情報発信)		<input type="radio"/>	論文・講演等による関連分野の研究者等への情報発信は十分か。
(科学的・技術的価値(地域共通課題の解決))																				
<input type="radio"/>	地域共通課題の解決につながる成果が得られたか。																			
<input type="radio"/>	原著論文の発表など、研究成果の量・質はアジア地域の科学技術向上に資するに十分であるか。																			
(波及効果(科学技術コミュニティの形成))																				
<input type="radio"/>	アジア地域の科学技術コミュニティの形成に向けてネットワークが形成されたか。																			
<input type="radio"/>	研究成果は関連分野への科学的・技術的波及効果が期待できるものか。																			
<input type="radio"/>	今後の社会経済の活性化への貢献が期待できるか。																			
(情報発信)																				
<input type="radio"/>	論文・講演等による関連分野の研究者等への情報発信は十分か。																			
III. 研究計画・実施体制	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="904 967 1144 991">(研究計画・手法の妥当性)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 1015 1182 1038"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 1015 2121 1038">研究項目ごとに適切な予算配分がなされていたか</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 1054 1182 1078"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 1054 2121 1078">目標達成のために取られた手法は適切なものであったか</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="904 1102 1144 1126">(国際共同研究体制)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 1142 1182 1166"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 1142 2121 1166">海外参画機関と十分連携の取れた共同研究がなされたか。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 1182 1182 1206"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 1182 2121 1206">海外機関がイコールパートナーシップに基づき、主体的に研究活動を行ったか。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1151 1222 1182 1246"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 1222 2121 1246">必要に応じて、国際研究会議等が開催されたか。</td> </tr> </table>	(研究計画・手法の妥当性)		<input type="radio"/>	研究項目ごとに適切な予算配分がなされていたか	<input type="radio"/>	目標達成のために取られた手法は適切なものであったか	(国際共同研究体制)		<input type="radio"/>	海外参画機関と十分連携の取れた共同研究がなされたか。	<input type="radio"/>	海外機関がイコールパートナーシップに基づき、主体的に研究活動を行ったか。	<input type="radio"/>	必要に応じて、国際研究会議等が開催されたか。				
(研究計画・手法の妥当性)																				
<input type="radio"/>	研究項目ごとに適切な予算配分がなされていたか																			
<input type="radio"/>	目標達成のために取られた手法は適切なものであったか																			
(国際共同研究体制)																				
<input type="radio"/>	海外参画機関と十分連携の取れた共同研究がなされたか。																			
<input type="radio"/>	海外機関がイコールパートナーシップに基づき、主体的に研究活動を行ったか。																			
<input type="radio"/>	必要に応じて、国際研究会議等が開催されたか。																			
IV. 実施期間終了後における取り組みの継続性・発展性	a. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保が期待できる c. 継続性・発展性の確保がやや期待できない d. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1151 1318 1182 1358"><input type="radio"/></td> <td data-bbox="1182 1318 2121 1358">課題終了後もネットワークを維持し、次につながる研究を継続できるしくみができているか。</td> </tr> </table>	<input type="radio"/>	課題終了後もネットワークを維持し、次につながる研究を継続できるしくみができているか。																
<input type="radio"/>	課題終了後もネットワークを維持し、次につながる研究を継続できるしくみができているか。																			



評価項目(案)

－ 戦略的研究拠点育成プログラム(事後評価) －

評価項目		評価の視点
総合評価	A. 所期の計画以上の取組である B. 所期の計画と同程度の取組である C. 所期の計画以下の取組である D. 全体として所期の計画を大幅に下回る取組である	
I. ミッションステートメントに対する達成度	a. 優れている b. 適切である c. 劣っている d. 不可である	1 目標に対する達成度 <input type="checkbox"/> ミッションステートメントを達成したか。 2 客観的な変化に対する計画の見直しとその達成度 <input type="checkbox"/> 情勢の変化に対して合理的に対応したか。 <input type="checkbox"/> 見直した計画に対して順調に達成したか。
II. 組織改革の妥当性 (達成度にとらわれない立場からの評価)	a. 優れている b. 適切である c. 劣っている d. 不可である	1 構想された組織の設計の妥当性 <input type="checkbox"/> そもそも組織改革を行ったか。(単なる研究実施だけになっていなかったか?) <input type="checkbox"/> 設定された目的を実現するために妥当な組織設計となっていたか。(必要な機能への落とし込みとそれを担う組織形態が構想されていたか。ただ単に人を集めて実行しているだけではなかったか。) 2 構想された組織の活性化 <input type="checkbox"/> 組織改革により形成された研究拠点は、国際的に見てトップレベルとなったか。あるいは、国際的な水準に近づいていったか。 3 構想された組織改革の波及性 <input type="checkbox"/> 他の部門・他の機関等に、実施された組織改革モデルが移転されたか。 <input type="checkbox"/> 波及に向けた情報発信を適切に行ったか。
III. 運営改革の妥当性(達成度にとらわれない立場からの評価)	a. 優れている b. 適切である c. 劣っている d. 不可である	1 運営制度の妥当性 <input type="checkbox"/> 設定された目的、組織改革に適合した運営制度となっていたか。(組織運営構想に則った人事制度、会計制度、給与制度等が設計されていたか。) 2 運営実態の妥当性 <input type="checkbox"/> 総括責任者は組織運営構想実現のために必要な権限と責任を有し、実態として責任を果たしたか。 <input type="checkbox"/> 組織のコンプライアンスが確保されていたか?(組織制度を適切に執行するための内部統制が機能していたか?) <input type="checkbox"/> 調整費と、調整費以外の資金が組織運営構想に則って適切に充当されていたか。 <input type="checkbox"/> その他、制度の妥当な運営がなされていたか。(モチベーションの高揚、意思疎通の確保、チェック機能の発揮、流動性の促進等) 3 運営体制の柔軟性 <input type="checkbox"/> 組織運営の見直し体制が組み込まれていたか。 <input type="checkbox"/> 見直し体制が機能していたか。 4 構想された運営改革の波及性 <input type="checkbox"/> 機関全体の運営を見直す契機となったか。 <input type="checkbox"/> 国内の他機関の運営を見直す契機となったか。

IV. 実施期間終了後における継続性の見通し	a. 優れている b. 適切である c. 劣っている d. 不可である	1 組織・運営の特色の継続性	<input type="checkbox"/>	終了後も組織・運営の特色を活かす計画となっているか。
		2 資金・人材面の継続性	<input type="checkbox"/>	終了後の運営に必要な財政的措置が計画されているか。
			<input type="checkbox"/>	終了後の運営に必要な人材の量的・質的な措置が計画されているか。
		3 研究・人材養成内容の継続性	<input type="checkbox"/>	終了後も構想された特色ある研究・人材養成内容を継続的に発展させる計画となっているか。
V. 中間評価の反映	a. 優れている b. 適切である c. 劣っている d. 不可である	1 中間評価で指摘された事項への対応	<input type="checkbox"/>	中間評価で指摘された事項がその後の計画において適切に反映されていたか。
		2 中間評価後の客観的な変化を踏まえた対応	<input type="checkbox"/>	中間評価後の情勢変化に対してさらに合理的に対応したか。
			<input type="checkbox"/>	情勢変化を踏まえて見直した計画を順調に達成したか。

評価項目(案)

－ 新興分野人材養成（事後評価） －

評価項目	評価項目	評価の視点	
総合評価	A. 所期の計画以上の取組が行われている B. 所期の計画と同等の取組が行われている C. 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画 と同等又はそれ以上の取組をみられる D. 総じて所期の計画以下の取組である		
I. 目標達成度	a. 所期の目標を上回っている b. 所期の目標に達している c. 所期の目標をやや下回っている d. 所期の目標を大幅に下回っている		<input type="checkbox"/> 所期の計画に記載されている終了時の量的及び質的目標を達成したか(養成人材像、養成人数、養成人材の到達レベル) <input type="checkbox"/> 客観的な情勢の変化等(社会ニーズの変化等)に対応して、所期の目標の適切な見直し等、柔軟に対処できていたか
II. 人材養成手法の妥当性	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	(人材養成の手段・方法)  (被養成者の到達度の測定・認定)	<input type="checkbox"/> 養成すべき人材像に対して、被養成者が習得すべき知識・スキル内容及びその到達レベルは明確に定められていたか、また、それらは適切なものとなっていたか <input type="checkbox"/> 被養成者の募集・選考方法は適切であったか <input type="checkbox"/> カリキュラムが中心の場合、被養成者が習得すべき知識・スキル及びその到達レベルに対応して、カリキュラムは体系的に整備されていたか <input type="checkbox"/> カリキュラム以外の方法(OJT、インターンシップ等)を行っていた場合、それらは適切に実施されていたか <input type="checkbox"/> カリキュラムが中心の場合、養成すべき人材像に対して、養成手法としての講義と演習・実習等のバランスは適切なものとなっていたか <input type="checkbox"/> OJTを行っていた場合、被養成者が従事する研究内容が、機関が本来、取り組むべき研究の補助に留まっていなかったか、人材養成の観点から適切な研究指導が行われていたか <input type="checkbox"/> 被養成者が習得した知識・スキルに関し、その到達レベルの測定方法は明確に定められていたか、また、それらは適切なものとなっていたか <input type="checkbox"/> 被養成者が目標とするレベルに到達したかを判定する基準(修了要件)は明確に定められ、それを認定する仕組み(判定委員会等)はあったか、また、それらは適切なものとなっていたか
III. 人材養成の有効性	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	(有用性・波及効果)  (情報発信)	<input type="checkbox"/> 養成修了者は、当該分野の振興のために活躍しているか、あるいは活躍が期待できるか <input type="checkbox"/> 被養成者や養成従事者へのアンケート、養成修了者やその出身元機関への追跡調査、外部有識者等による評価等を行い、その結果を当該人材養成システムにフィードバックする仕組みはあったか <input type="checkbox"/> 当該養成方法は、当該分野のニーズ(科学的・技術的ニーズのみならず、社会的・経済的ニーズも含む)に対応した適切なものとなっていたか <input type="checkbox"/> 他者が利用可能な形でテキスト等の作成が行われていたか <input type="checkbox"/> 当該人材養成の方法は他の機関にとっても有効・有用な方法となり得るものか、また、他の機関への波及効果はどの程度あるか <input type="checkbox"/> 一般向けの広報は十分であったか <input type="checkbox"/> 有用性・波及効果の高いと想定される人材養成手法等に関し、関連分野に向けた情報提供・情報交換(養成手法に関する論文発表、シンポジウム開催等)は活発に行われていたか

IV. 実施計画・実施体制及び継続性・発展性の見通し	a. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保が期待できる c. 継続性・発展性の確保がやや期待できない d. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	(実施計画の妥当性)	<input type="checkbox"/> 養成従事者(教員等)の配置状況や設備・備品類の整備状況等は、所期の目標を達成するために適切なものであったか
			<input type="checkbox"/> 投下された資金の規模や用途等は、人材養成の成果とバランスがとれていたか
		(実施体制の妥当性)	<input type="checkbox"/> 当該人材養成に対する実施機関の関与(支援・協力)は積極的に行われていたか
			<input type="checkbox"/> 民間企業等の参画による人的・経済的な協力は効果的に行われていたか
			<input type="checkbox"/> 同じ分野における他の人材養成実施機関との連携は効果的にとられていたか
		(継続性・発展性の見通し)	<input type="checkbox"/> 実施機関の長による支援が十分行われてきたか、また、現在も、それらの支援が継続され、機関本来の事業として実施されているか
V. 中間評価の反映	a. 期待以上の反映がなされている b. 反映されている c. 一部反映されていない d. 反映されていない		<input type="checkbox"/> 当該分野の人材養成において今後の発展性を期待できるものか
			<input type="checkbox"/> 中間評価で指摘された事項がその後の計画において適切に反映されていたか

評価項目(案)

－ 重要課題解決型研究（事後評価） －

評価項目		評価の視点
総合評価	A. 所期の計画以上の取組が行われている B. 所期の計画と同等の取組が行われている C. 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等以上の取組もみられる D. 総じて所期の計画以下の取組である	
I. 目標達成度	a. 所期の目標を上回っている b. 所期の目標に達している c. 所期の目標をやや下回っている d. 所期の目標を大幅に下回っている	(ミッションステートメントの達成)
		<input type="checkbox"/> 中間評価時点でのミッションステートメントを達成し、最終的なミッションステートメントを達成したか
		(政策目標・政策課題への成果の還元)
		<input type="checkbox"/> 社会制度的な取り組みに資する成果が得られたか
		<input type="checkbox"/> ユーザー側関係者の期待に応える成果が得られたか
II. 情報発信	a. 期待以上に行われている b. 適切に行われている c. やや不十分である d. 不十分である	(成果発表)
		<input type="checkbox"/> 特許取得への取り組みは適切に行われたか
		<input type="checkbox"/> 原著論文の発表は適切に行われたか
		<input type="checkbox"/> レビュー論文・講演等による関連分野の研究者等への情報発信は適切に行われたか
		(アウトリーチ)
		<input type="checkbox"/> アウトリーチ活動による一般向けの成果普及活動は十分に行われたか
		<input type="checkbox"/> 国民・社会に対する研究成果の理解の向上に資する工夫はなされていたか
III. 研究計画・実施体制	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	(研究計画の妥当性)
		<input type="checkbox"/> 研究項目ごとに適切な予算配分がなされていたか
		<input type="checkbox"/> 研究開始後の情勢変化や研究の進捗状況を踏まえた計画の見直しが適切に行われたか
		(共同研究の意義・必要性)
		<input type="checkbox"/> それぞれのシーズとニーズが相乗的な効果をもたらし、次の研究への発展につながる等の副次的効果があったか
		<input type="checkbox"/> それぞれが単独に実施した場合以上の成果を得られたか
		(共同研究の連携・整合性)
		<input type="checkbox"/> それぞれの研究機関の取組は十分連携のとれたものであったか
<input type="checkbox"/> それぞれの研究機関は主体的に共同研究に取り組むことができたか		
<input type="checkbox"/> 研究機関間で十分な意思疎通は図れていたか		
IV. 実施期間終了後における取り組みの継続性・発展性	a. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保が期待できる c. 継続性・発展性の確保がやや期待できない d. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	<input type="checkbox"/> 実施期間終了後も政策課題の実現に向けた取り組みが継続される見通しがあるか
		<input type="checkbox"/> 社会・経済・科学・技術への波及効果が期待できるか
V. 中間評価の反映(中間評価を実施した課題のみ)	a. 期待以上の反映がなされている b. 反映されている c. 一部反映されていない d. 反映されていない	<input type="checkbox"/> 中間評価で指摘された事項が見直し後の計画において適切に反映されていたか
		<input type="checkbox"/> 計画見直し後の情勢変化への対応は適切であったか

評価項目(案)

－ 科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進 (事後評価) －

評価項目	評価項目	評価の視点(平成21年度)
総合評価	A: 所期の計画以上の取組が行われている。 B: 所期の計画と同等の取組が行われている。 C: 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等以上の取組もみられる。 D: 総じて所期の計画以下の取組である。	
I. 目標達成度	a. 所期の目標を上回っている b. 所期の目標に達している c. 所期の目標をやや下回っている d. 所期の目標を大幅に下回っている	(ミッションステートメントの達成) <input type="checkbox"/> ミッションステートメントを達成したか
II. 情報発信	a. 期待以上に行われている b. 適切に行われている c. やや不十分である d. 不十分である	(成果発表) <input type="checkbox"/> 原著論文の発表・特許取得への取り組みは適切に行われているか <input type="checkbox"/> 学会・シンポジウム等において関連分野の研究者等や一般国民に対する情報発信は適切に行われたか
III. 研究計画・実施体制	a. 高く評価できる b. 妥当である c. やや不適切である d. 不適切である	(研究計画の妥当性) <input type="checkbox"/> 研究項目ごとに適切な予算配分がなされていたか <input type="checkbox"/> 研究開始後の情勢変化や研究の進捗状況を踏まえた計画の見直しが適切に行われたか (実施体制の妥当性) <input type="checkbox"/> それぞれの研究機関における研究実施体制は十分に整備されていたか <input type="checkbox"/> 研究代表者のイニシアティブの下、それぞれの研究機関は十分に意思疎通を図るとともに連携して研究を実施したか
IV. 実施期間終了後における取り組みの継続性・発展性	a. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保が期待できる c. 継続性・発展性の確保がやや期待できない d. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	(継続性・発展性の見通し) <input type="checkbox"/> 実施期間終了後も実用化等に向けた取り組みが継続される見通しがあるか <input type="checkbox"/> 社会・経済・科学・技術への波及効果が期待できるか

## 評価作業部会委員の選定基準について（案）

### 0. 共通基準

- (1) 審査を行った委員を加えること
- (2) 評価対象の課題の研究代表者・参画者でないこと
- (3) 多様性を考慮した委員構成とすること（その際、性別、年齢、所属する大学等の適切なバランスに配慮する）
- (4) 大学等の教育機関に属する者においては、原則として博士の学位を有する教授または准教授クラスの者
- (5) 研究機関および民間企業に属する者においては、プロジェクトリーダー等のマネージャークラスの者、あるいは、上記（3）の者と同等以上の能力を有する者

### 1. 科学技術システム改革関連作業部会委員

- (1) 科学技術システム改革、組織マネジメント等に関する豊富な経験・知見を有する有識者
- (2) 評価対象分野を含む幅広い知見を有する者
- (3) 別紙に示したような諸分野をカバーできる構成とする。

### 2. 人材育成関連作業部会委員

- (1) 学会・産業界において人材養成に関する十分な経験又は見識があること
- (2) 別紙に示したような諸分野をカバーできる構成とする。

### 3. 研究開発関連作業部会委員

- (1) 評価対象課題を包含する研究分野の研究者
  - ① 関連分野の研究実績（論文、受賞等）が優れていること
  - ② 学会等での活動実績が優れていること
- (2) 評価対象課題を包含する事業分野の技術（研究）者
  - ① 当該課題に関連し、産業界において技術（研究）開発の経験が十分あること
  - ② 当該課題に関連した事業について、十分な実務経験があること
- (3) 別紙に示したような諸分野をカバーできる構成とする。

### 4. メールレビューアー

上記の他、評価課題の内容に応じて、当該分野の専門家によるメールレビューを実施する。

### 【各作業部会の評価に必要とする分野】

#### (1) 若手研究者の自立的な研究環境整備評価作業部会

科学技術政策、医学、自然科学一般、教育学等の専門家もしくは大学や企業等において人材育成、人材開発、組織改革の知識・経験があること。

#### (2) 地域再生人材創出拠点形成評価作業部会

地域振興、経営学、地方政策、環境学、機械工学

#### (3) 女性研究者支援モデル育成評価作業部会

科学技術政策、男女共同参画、ジェンダー問題等の専門家、もしくは大学や企業等において、人事労務、男女共同参画等に関する知識・経験があること。

#### (4) 国際共同研究推進評価作業部会

科学技術一般、科学技術政策、環境、防災、医療、感染症、情報通信、電気通信、化学、生物学、システムエンジニアリング、材料工学、国際政治、国際経済、国際法

#### (5) ライフ系人材養成評価作業部会

バイオインフォマティクス/システム生物学、生命情報科学、臨床医療、医工連携、ナノメディシン、生命倫理、医療倫理、知的財産、遺伝カウンセラー

#### (6) 情報・社会基盤系人材養成評価作業部会

ソフトウェア工学、システムLSI、情報セキュリティ、知的財産、MOT (Management of Technology)、リスク管理、ナノテク

#### (7) 感染症研究評価作業部会

免疫学、臨床医学、感染症学、ウイルス学、プリオン、プリオン病、バイオテクノロジー一般

#### (8) 情報通信研究評価作業部会

コンピュータサイエンス、情報学、情報通信ネットワーク、データベース、コンピュータグラフィックス、情報セキュリティ

#### (9) 国際テロ犯罪研究評価作業部会

保健衛生、防疫、安全管理、リスクコミュニケーション、化学、放射線、土木工学、テロ対策、犯罪学

#### (10) ユビキタスネットワーク研究評価作業部会

情報通信システム、情報通信ネットワーク、組込み技術、電波測位、位置推定



**(11) 次世代ロボット研究評価作業部会**

ロボティクス、メカトロニクス、ヒューマンインターフェース、パターン認識、サービス工学、機械工学、計測工学、制御工学、人工知能

**(12) バイオマス利活用研究評価作業部会**

バイオマス、化学工学、環境工学、衛生工学、エネルギーシステム、超臨界流体、森林学、生物工学

**(13) ナノバイオテクノロジー研究評価作業部会**

ナノバイオテクノロジー、医用生体工学、分子イメージング、薬学、DDS、バイオセンサー、生体材料、ナノメディシン

**(14) 戦略的研究拠点育成評価作業部会**

MOT、ナノテクノロジー、ライフサイエンス、医工学、環境、知的財産

### 課題数の少ない評価作業部会の開催について

平成21年度は評価対象課題の専門性を十分に考慮し、従来より細分化した作業部会構成としたところ、対象課題数が少ない作業部会を設置する見込が生じた。そこで、課題数が少ない（概ね3～4課題）作業部会については、第1回・第2回作業部会をあわせて1日で開催する。（作業のイメージは下記のとおり）

これにより、専門性を十分に考慮した作業部会構成としつつ、評価委員及び実務運営側の負担を軽減し、効率的な評価業務を行うことが可能となる。

#### 記

##### 【作業部会前】

- ① 評価方法やプログラム趣旨の事前説明に加え、成果報告書の読込みと不明点の確認方法、メールレビューの位置付け等について十分な事前説明を実施。
- ② 8月中旬から9月中旬を評価委員の成果報告書読込み期間とし、不明点等を事務局で回収する。
- ③ 回収した不明点等を主査・主査補佐で精査し、「事前確認事項扱い」か「ヒアリング留意点扱い」か判断。
- ④ 「事前確認事項扱い」となったものは9月下旬から10月初旬にかけて被評価者に回答を求め、10月中旬以降に開催する作業部会前に回答を委員に送付する。
- ⑤ 「ヒアリング留意点扱い」となったものは、作業部会前に事務局から被評価者に伝達し、回答をプレゼンテーションに盛り込んでもらう。

##### 【メールレビューの扱い】

- ① 評価委員の内諾を得た段階で対象課題の概要を示し、評価可能課題（自身の専門に合致する課題）を申告してもらう。
- ② 申告の結果を集計し、さらに不明点等の意見回収とあわせてメールレビューの必要性の有無を情報収集し、主査・主査補佐で精査し実施を決定。
- ③ ②によりメールレビューを行うこととなった場合には、9月下旬から10月初旬にかけてメールレビューを実施し、10月中旬以降に開催する作業部会で主査補佐から説明を行う。

##### 【作業部会当日の流れ】

- ① 各課題の概要、PO留意点の説明（午前）
- ② ヒアリングの実施（午後）
- ③ 総合討論（午後）

以上